

旧門脇小学校校舎 大川小学校旧校舎 視察結果

平成28年9月28日

旧門脇小学校校舎に関する
震災遺構検討会議(第2回)資料

視察概要

- 日程：平成28年9月7日（水）午後
- 参加者：
震災伝承検討会議及び震災遺構検討会議
（大川小学校旧校舎・旧門脇小学校校舎）
メンバー36名（門脇小：25名、大川小：31名）
石巻市10名、コンサル3名 計49名
- 行程：
13:00～旧門脇小学校校舎視察
15:00～大川小学校旧校舎視察

旧門脇小学校校舎

門脇小学校の概要

- 明治6年(1873年)創立。
- 石巻湾から約500m内陸、日和山の麓に位置する3階建ての校舎。
- 東日本大震災では、津波と火災により甚大な被害を受け、現在も校舎内部にその痕跡を残している。
- 平成27年(2015年)3月に閉校し、石巻小学校と統合。142年の歴史に幕を下ろした。
- 平成28年(2016年)3月、石巻市は震災遺構として校舎を一部又は部分保存することを発表した。
- 現在、一般の立入りは不可。

旧門脇小学校校舎

《石巻市震災遺構調整会議 報告書

(平成27年12月28日)より》

伝承の意義

- ①内陸部における津波と火災の複合被災を経験して残る東北唯一の施設
- ②複合被災の中での避難を可能とした環境
- ③地域の歴史を伝えるシンボル
- ④複数の主要な復興まちづくり事業の展開地域に立地

旧門脇小学校校舎

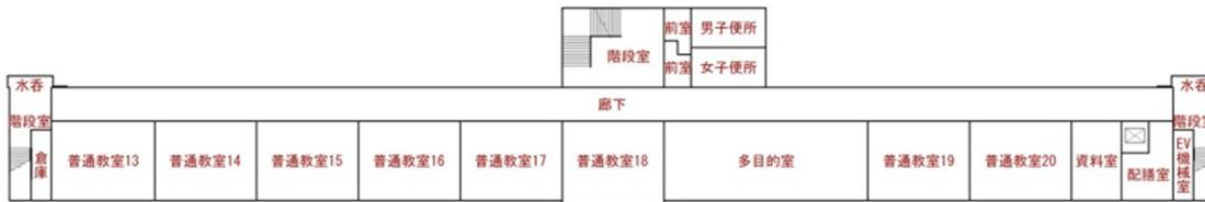
《震災当時の校長 鈴木洋子氏
による案内》

- 地震発生前後の状況、避難行動等
- 地震直後、児童は日和山へ避難し、学校管理下にあった児童は全員無事
(ただし、全校児童300名のうち7名が犠牲になった。また、校庭で犠牲になった人もいた。)

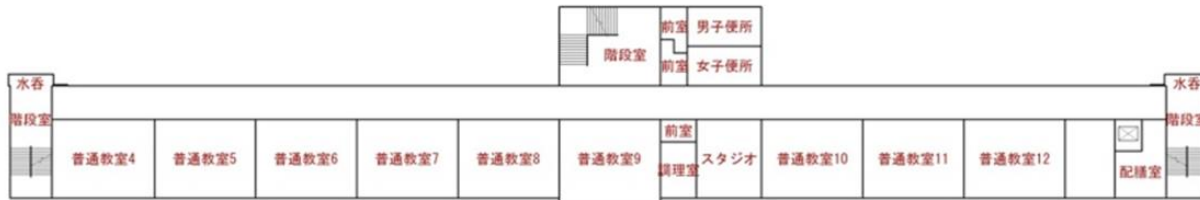


旧門脇小学校校舎

《校舎平面図》



3階平面図



2階平面図



1階平面図

旧門脇小学校校舎

《校舎内部(1階)》

- 校舎内には津波堆積物が残り、被災の痕跡が認められる
- 職員室:震災後に卒業証書が発見された金庫
- 1階東側階段:階段下の付近は燃え方が著しい

《校舎内部(2階)》

- 2階東側:「津波火災」により焼失
- 2階西側:火が回らず、元のままの状態が残る
- 震災当時、校舎内へ避難した地域住民約40名が、2階廊下の窓から校舎裏へと教壇を渡して逃れた。

《校舎内部(3階)》

- 3階東側・西側:「津波火災」により焼失

大川小学校旧校舎

大川小学校の概要

- 明治6年(1873年)創立[釜谷小学校]
- 昭和60年(1985年)[大川第一小学校]と[大川第二小学校]が統合され[大川小学校]に
- 北上川流域の釜谷地区、河口から4~5km内陸、
海拔1.1mに位置する2階建ての校舎
- 東日本大震災では、北上川を遡上した津波によって校庭にいた児童74名、教職員10名が犠牲となり、
校舎も大きく損傷
- 平成28年(2016年)3月、石巻市は震災遺構として校舎を全部保存することを発表

大川小学校旧校舎

《石巻市震災遺構調整会議 報告書

(平成27年12月28日)より》

伝承の意義

- ①防災教育
- ②河口から上流5kmにおける大きな津波被害を経験した施設
- ③多くの犠牲者を悼む慰霊・鎮魂と避難の重要性を忘れないための場所
- ④地域の歴史を伝えるシンボル

大川小学校旧校舎

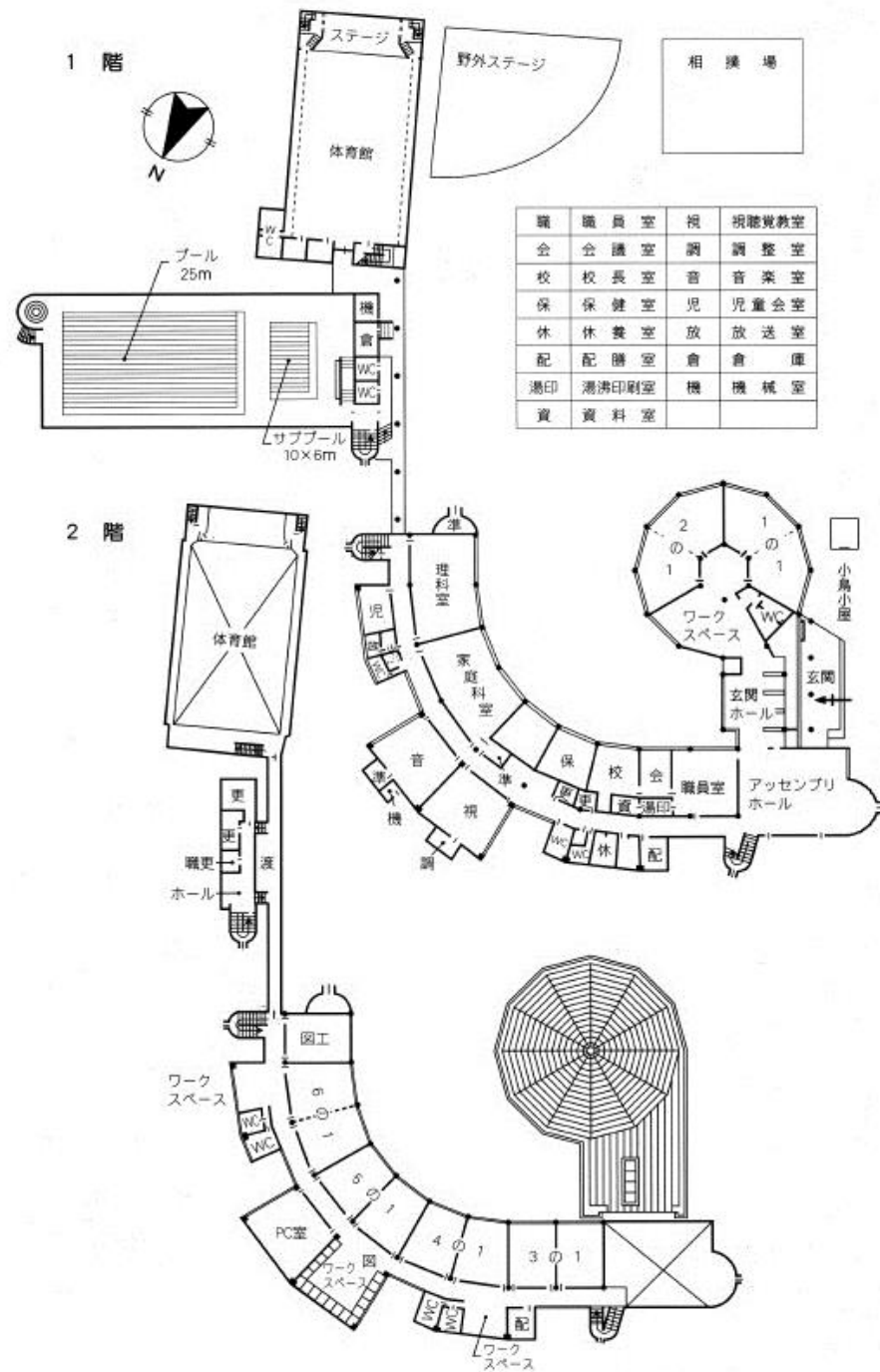
《小さな命の意味を考える会
佐藤敏郎氏による案内》

- ・【車中】地区の被災状況、震災前の生活、現在の校舎周辺の状況等
- ・【校舎】地震発生後の出来事、校舎内・周辺の被災状況
- ・【裏山近くや校庭】被災当時の児童・教職員の動き、見学者等に関する現状と問題点



大川小学校 旧校舎

《校舎平面図》



大川小学校旧校舎

《校舎内部(1階)》

- 校舎前に貼られたロープに取り付けられた写真や資料の展示は、視察や案内の際に設置される
- 集会等が行われていたアッセンブリホールには、毎年ボランティアらによりツリーやイルミネーションが飾られる
- 後方壁際の一角に千羽鶴等が飾られている

《校舎内部(2階)》

- 壁が損壊し、教室の天井に波状痕が残る
- 2階の端からは、倒壊した渡り廊下が見える

大川小学校旧校舎

《裏山付近》



- 震災前、シイタケ栽培体験学習が行われていた裏山への登り口
- 市が「立入禁止」看板設置

大川小学校旧校舎

《校庭》

- 震災当時の児童らの避難行動、経路の確認
- 慰霊碑
- 大川小には日々多くの人を訪れるが、見学者や工事関係者をめぐる問題もある(駐車、煙草、トイレ等)

